

国際交流プロジェクト



芸術・文化で繋がる リサイクルの輪

10月3日(水)から9日(火)までの6日間インドネシア国デポック市の民族舞踊団(高校生12名、教師3名)が本町を訪れました。

本町が平成23年2月に同市と環境改善を主とした取り組みを進める覚書を締結したことをきっかけに交流をはじめた大崎ものづくりネットワーク振興会(小川益治会長)が宝くじの助成金を活用して実施したものです。

今回、受け入れた高校があるデポック市は、急激な人口増加などから深刻な環境問題を抱えています。同振興会では、教師や生徒を受け入れ、両国の芸術文化の交流を通して、同市の環境教育をサポートしようという計画されました。

舞踊団一行は、学校や福祉施設の訪問、野方ふれあいのさとまつり、町民体育祭などで民族舞踊を披露し、町民との交流を深めました。

また、生徒らは滞在期間中、町内の分別状況や大崎有機工場、そおりサイクルセンターの視察を行い、ごみの資源化について学びました。

8日(月)には、町中央公民館において交歓のつどいと題した国際交流舞踊ライブを開催しました。

ライブでは、スマトラ島のアチエ州の伝統舞踊で祝いの場で踊る『サマダンズ』など5曲を披露し、会場に訪れた約700人を魅了しました。

